

岐阜農林事務所の普及活動状況

平成31年3月31日現在

今月の重点活動

■水稲 岐阜県GAP導入研修会開催

3月16日、JAぎふ合渡支店において、岐阜県GAP導入研修会を開催した。対象となる(有)合渡水田夢クラブでは、米で岐阜県GAP確認を受ける計画があり、その実施に向けた研修会を、役員7名を対象に行った。

農業普及課から、岐阜県GAP確認制度の概要や農場管理基準について説明し、自己点検を実施するよう指導を行った。今後、4月頃までに農場管理基準の自己点検を実施し、次年度末頃には申請書類を提出する予定である。

農業普及課では、当該経営体の岐阜県GAP確認へ向けて、関係機関と協力して支援を進めていく。
(地域支援第一係・小島康平)



【研修会の様子】

新たなブランドづくり

■にんじん 平成30年度各務原にんじん出荷反省会開催

3月12日、JAぎふ各務原中央営業所において、平成30年度出荷反省会が開催された。

各務原市園芸振興会にんじん部会役員、中京地区卸売市場(5社)・仲卸業者、全農岐阜県本部、JAぎふ、市の各担当者等が出席し、本年度産生産販売状況(春夏、冬にんじん)の確認、次年度産の生産・販売に向けた意見交換(特に春夏にんじん)等を行い、円滑な選果場運営に向けた高品質・安定生産の重要性等について、関係者相互の意識統一が伺われた。

農業普及課では、にんじん選果場稼働3年目となる来年度産の春夏、冬にんじんの高品質・安定生産・安定出荷に向けた支援を継続する。
(地域支援第二係・近藤 徹)



【反省会の様子】

多様な担い手づくり

■カキ JAぎふ柿塾開催

3月15日、JAぎふ黒野流通センターにおいて、JAぎふ柿塾(第6回目)が開催された。

当柿塾は、柿産地の担い手育成を目的に開催している年間6回の基礎講座であり、今回は今年度最後の開催として、農業普及課が講師となり、今後の柿づくりに向けた肥培管理や年間の病虫害防除について指導を行った。

今回9名の参加者のうち1名は、瑞穂市で後継者として認定就農する見込みであり、農業普及課としても、引き続き取り組みを支援していく。

(園芸産地支援第二係・鷺見彩子、西垣 孝)



【柿塾の様子】

売れるブランドづくり

■岐阜市園芸振興会 GAP運営委員会で次年度計画検討

3月5日、岐阜市内のホテルにおいて、岐阜市園芸振興会のえだまめ部会やだいこん部会など4部会の役員やJAぎふの関係者などによるGAP運営委員会が開催された。

各部会から、本年度活動状況と来年度活動計画について報告があり、振興会としてのGAPの取組方針を検討した。

農業普及課からは、県GAP確認制度等について情報提供を行った。出席した部会役員からは、「GAPに取り組んでみて、思っていたほど難しくはなかった」などの意見があった。また、



【GAP運営委員会の様子】

現在は部会毎での活動が主体となっているが、今後は、岐阜市園芸振興会として一元化した効率的な活動について役員から提案があった。

農業普及課は、今後もポストオリパラに向けて、GAPの取組みを関係機関と一致連携して支援していく。
(園芸産地支援第一係・高橋幸蔵、三和浩一、川部 知)

■水稲 無農薬・無化学肥料栽培米意見交換会開催

3月13日、JAぎふ本店において、無農薬・無化学肥料栽培米生産に係る意見交換会が開催された。

本年度、実需者から要望のあったハツシモ岐阜SLの無農薬・無化学肥料栽培に、羽島市、瑞穂市の生産者が試験的に取り組んでおり、羽島市の生産者、実需者、JAぎふ関係者が出席し、本年産生産状況や次年度以降に向けた生産・販売の方向性等について検討した。

実需者、生産者とも、今後も継続的な取り組み意向があることが確認できた中、次年度は羽島市の生産者のみ栽培を継続し、将来的には有機JAS認定取得を視野に入れた取り組み意向も確認された。

農業普及課からは、平成30年産の生育経過や収量、品質に関する情報提供とともに、次年度の栽培に向けた栽培管理上のポイントを説明したほか、今後の取り組みに向けた意見交換において必要に応じて助言等を行い、今後も関係機関と連携し、実需者ニーズに対応した米生産への支援を継続する。
(地域支援第二係・今井啓司)



【意見交換会の様子】

■えだまめ JAぎふえだまめ部会役員会開催

3月26日、JAぎふ島支店において、JAぎふえだまめ部会役員会が開催された。今年、えだまめ部会の役員改選の年にあたり、部長以下、新役員は新たな気持ちで2019年度から2年間の任期を務める。農業普及課からは、次年度品種試験の説明、県GAP取り組みスケジュールの提案などを行った。

農業普及課は、今後も各関係機関と連携し、部会役員協力のもと、県GAP推進及び岐阜えだまめの産地育成に向けた指導を行う。

(園芸産地支援第一係・川部 知)



【役員会の様子】

■ブロッコリー 春ブロッコリー研修会開催

3月7日、JAぎふ西郷支店において、JAぎふ西部地域春ブロッコリー研究会の研修会が開催された。

今作は、収穫作業分散を目指して、全生産者が2品種の試作に取り組むこととしており、農業普及課からは、試作品種の特性や今後の管理について指導を行った。

農業普及課では、今後も良品出荷に向けて、生育状況に合わせた栽培管理情報の提供を行う予定である。



【研修会の様子】

(地域支援第一係・鈴木郁子)

■いちご イチゴ原種苗の検査・配布

県育成品種「濃姫」「美濃娘」「華かがり」の増殖用苗は、原原種苗生産施設、原種苗生産施設、各地域の親苗生産施設の順に生産が行われ、生産者の元へ配布される。3月11日、岐阜県園芸特産振興会、県関係機関の担当職員が本巣市の原種苗生産施設において、原種苗の配布前の検査を行った結果を踏まえ、3月19日に各地域の親苗生産施設へ原種苗が配布された。栄養繁殖で苗生産を行うイチゴにおいては、各施設で優良な苗を生産して農家に届ける大きな責任がある。

農業普及課では、関係機関と連携して原種苗生産施設、親苗生産施設での栽培指導を行っている。今後も優良種苗の安定生産に向けた支援を継続していく。

(園芸産地支援第一係・菊井裕人)